

# 保健室だより

平成 26 年 9 月臨時発行

大正大学保健室

「デング熱」聞き慣れない感染症が今年の夏から流行しています。

デング熱とは、デングウィルスによる感染症で蚊が媒介となり感染します。人から人への直接感染はありません。

主に、東南アジア、南アジア、中南米など熱帯・亜熱帯地域で流行し、日本国内では海外の流行地で感染し、帰国後、発症した症例が毎年 200 人前後報告されています。

今年の 8 月、東京代々木公園周辺でデング熱の感染が相次ぎ、現在感染者は、100 人を超え、デング熱の感染拡大を防ぐため、発生地区である都立代々木公園、新宿御苑周辺など感染地域では蚊の駆除が行われています。

## 【デング熱にかからないために～予防法】

・国内では、ヒトスジシマカがデング熱を媒介する可能性があり、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。

(ヒトスジシマカの活動は5月～10月中旬頃まで)

○屋外作業時は長袖・長ズボンを着用し、なるべく肌の露出を避けるようにしてください。

○虫よけ剤等を利用し、蚊に刺されないようにしましょう。

○蚊の幼虫の発生源をなくすことです。雨水桝、植木鉢や、プランターの水受け皿等に水が溜まらないようにしましょう。



【デング熱の症状・・・ 突然の高熱に注意しましょう!!!】

・デング熱はデングウィルスを持つ蚊に刺され、3～7日の潜伏期の後、38℃以上の発熱で始まります。眼窩痛、頭痛、関節痛、悪心、嘔吐などの症状が起こり、一般の風邪症状によく似ています。

・発熱は発症者ほぼ全例にみられ、通常 2～7 日で解熱し、1週間程で治癒します。重症化はほとんどありません。

・感染した約半数の人に湿疹が認められます。発症してから 3～4 日後に、胸部・腹部・体幹から始まり、手足・顔面と湿疹が広がり、1週間ほどで回復します。

・血液検査をすると、白血球・血小板の低下がみられます。

【治療法】

・特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。有効なウィルス薬などもありません。

大正大学保健室にデング熱疑いで来室された方には、以下の症状があった場合、医療機関受診とします。

(1) 蚊に刺され方。

(2) 突然の熱発(38℃以上)を呈する方。

(3) 以下の項目のうち2つ以上の症状が認められる方  
・発疹 ・悪心 ・嘔吐 ・頭痛 ・関節痛 ・筋肉痛

